

第 51 回衆議院議員総選挙結果を踏まえたコメント

2026 年 2 月 9 日

日本鉄道労働組合連合会（ＪＲ連合）

第 51 回衆議院議員総選挙において、推薦候補の必勝に向けてご支援ご尽力いただいた組合員や家族の皆さまに御礼を申し上げます。また、献身的に奮闘されたすべての関係者にも敬意を表する。

昨年 7 月に実施された参議院議員選挙において、与党が大きく議席を減らし、過半数を割り込んだ。国民が自民党政治に「ＮＯ」を突きつけた形となったが、その後、10 月に日本初の女性総理大臣として高市早苗氏が指名されると、自民党は連立政権の枠組みを変え、1 月 23 日の通常国会冒頭にて衆議院解散・総選挙に踏み切った。この判断は、多くの国民が物価高に苦しむ中、その対策の裏付けとなる 2026 年度予算案の審議に悪影響を与えるものであり、国民の期待を裏切った。

そのような状況下で、立憲民主党は、対立軸を作るべく公明党と新党「中道改革連合」を立ち上げた。急転直下の動きで組合員には戸惑いもあったが、新たな選択肢を示したものとして推薦候補者が中道に所属することを受け止めた。また、選挙戦の中盤には、連合と交運労協からそれぞれ檄が発せられ、交通運輸産業で働く仲間を中心に、一体感を醸成することに寄与することになった。

ＪＲ連合は、記録的な積雪により輸送に乱れが生じていた中ではあったが、時あたかも 2026 春季生活闘争に向けた機関会議や職場討議が開催される時期であり、多くの組合員と政治活動に関する意思統一を図ることができた。そして、各単組からの推薦に基づき、連合の方針およびＪＲ連合の掲げる運動理念や政策に賛同する人物本位の候補者を推薦のうえ、全国で当選に向けた取り組みを展開してきた。最重点候補者では、ＪＲ連合国会議員懇談会の副会長である泉健太氏（京都 3 区）や事務局長である小川淳也氏（香川 1 区）が当選するとともに、重点候補者でも「21 世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属する仲間たちが、苦しい選挙戦であったが当選を果たした。しかし、この間、議員懇談会副会長として深い知見から国会における地域公共交通政策の議論をリードしてきた伴野豊氏（愛知 8 区）をはじめ、すべての最重点候補者を再び国政の場に送ることができなかったことは痛恨の極みである。また、ＪＲ連合の運動に理解を示し政策実現にご尽力をいただいた多くのフォーラム所属重点候補者が善戦及ばず惜敗となった悔しさは筆舌に尽くし難い。

本選挙は歴史的な結果をもたらし、初めて単独の政党が衆議院の 3 分の 2 の議席を占めることとなった。しかし、選挙期間における政策の議論は不十分であったと言わざるを得ず、政権与党は対話を通じた丁寧な国会運営を行わなければならない。一方で、寒波が吹きすさぶ真冬の選挙であったが、投票率は上昇傾向にあり、政治への関心の高まりが見られた。ＪＲ連合は、議員懇やフォーラム所属議員との連携をむしろ強化し、さらにプレゼンスを高めることを通じて、これまで同様、国の公共交通に対するグランドデザインや予算の配分構造、税制や整備新幹線などの重要課題の解消を関係主体との対話をもって推進し、ＪＲ産業を持続的に成長させていく決意である。そして、引き続き組織内で政治活動の意義を浸透させ、取り組みを深度化させることで、組合員・家族の幸せ実現に邁進するものである。

以上